



目次

- 2 「三陸復興道路整備事業」の取組を進めています
- 7 第1回環境・景観検討委員会を開催
- 8 いわて花巻空港に4年ぶりのハワイ便
- 9 「下水道ふれあい展」を開催
- 10 応急仮設住宅団地の環境改善を実施中
- 11 木賊川の分水路完成報告会を開催
- 12 いわて花巻空港年末年始臨時便のお知らせ
- 13 いわて花巻空港キャンペーン期間延長のお知らせ

美しい 県土づくりNEWS



岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第 88 号
平成 23 年 11 月 29 日発行
編集 県土整備企画室

三陸復興

「復興道路」着工式を行いました！！

～ 災害に強い交通ネットワークの構築に向けた大きな一歩 ～

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波(平成 23 年東北地方太平洋沖地震及び津波災害)から 8 ヶ月余りが経ちましたが、平成 23 年 11 月 20 日に、田野畑村の三陸北縦貫道路「尾肝要道路」において、「復興道路」着工式が行われました。「復興道路」の整備については、11 月 21 日に成立した国の平成 23 年度第 3 次補正予算で本県に約 607 億円が配分され、三陸沿岸地域の復興を象徴する「復興道路」の早期完成に向けて、大きな一歩を踏み出しました。



「三陸復興道路整備事業」の取組を進めています！

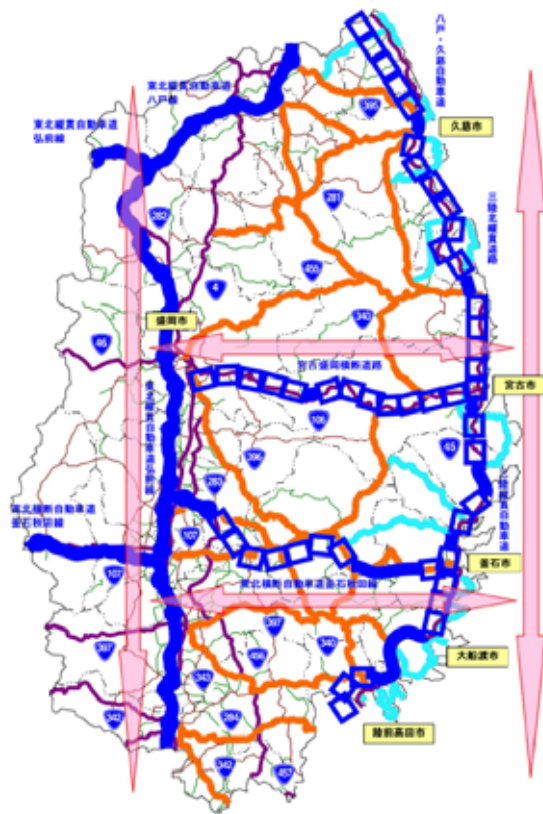
～ 災害に強い交通ネットワークの構築に向けて ～

道路建設課

県では、三陸沿岸地域の復興と安全・安心を確保するため、災害時等における確実な緊急輸送や代替機能を確保するとともに、水産業等の復興を支援する災害に強く信頼性の高い道路ネットワークを構築するため、岩手県東日本大震災津波復興計画（復興実施計画）において、**三陸復興道路整備事業**を掲げています。今月号では、**三陸復興道路整備事業**について、現在、国や県で進めている取組について、紹介します。

【三陸復興道路整備事業の概要】

三陸復興道路整備事業ネットワーク図



【復興道路】

三陸沿岸地域の縦貫軸と内陸部と三陸沿岸地域を結ぶ横断軸の高規格幹線道路等の整備を促進

【復興支援道路】

内陸部から三陸沿岸各都市にアクセスする道路及び横断軸間を南北に連絡する道路、インターチェンジにアクセスする道路について、交通隘路の解消や防災対策、橋梁耐震化等を推進

【復興関連道路】

三陸沿岸地域の防災拠点（役場、消防等）や医療拠点（二次・三次救急医療施設）へアクセスする道路及び水産業の復興を支援する道路について、交通隘路の解消や防災対策、橋梁耐震化等を推進

復興道路	復興支援道路
: 供用済区間	: 復興支援道路
: 未供用区間	: 復興関連道路

1 『復興道路』 着工式を行いました！！

平成 23 年 11 月 20 日（日） 田野畑村において、岩手県、三陸沿岸道路等沿線市町村、国土交通省東北地方整備局の主催により、「復興道路」着工式を行いました。

「復興道路」着工式は、県が「復興道路」に位置付けている三陸沿岸道路のうち、現在整備中の三陸北縦貫道路「尾肝要道路」の尾肝要トンネルの着工を契機として行われました。

「復興道路」については、平成 23 年 11 月 21 日に成立した国の平成 23 年度第 3 次補正予算において、岩手県内の三陸沿岸道路と東北横断自動車道釜石秋田線の未着工全区間及び宮古盛岡横断道路の優先整備区間が新規事業化され、本県に約 607 億円が配分されました。



式典には、国の岩手現地対策本部長の津川祥吾国土交通大臣政務官や達増知事ら関係者約70人が出席し、主催者を代表して達増知事から「復興道路は東日本大震災津波からの復興をけん引する基幹事業として、大きな期待を寄せているところ。このたびの工事着手は、全線開通の早期実現に向けた大きな一歩」と挨拶しました。

また、会場では、震災直前の平成23年3月5日に部分開通した三陸縦貫自動車道「釜石山田道路」を避難路として、まさに「命の道」として利用した鶴住居小学校、釜石東中学校の子供たちからのビデオレターが紹介されたほか、釜石市が「三陸の奇跡」の象徴として作成した「命の道バッチ」が地元の田野畑小学校の生徒から参加者に配られました。

最後に関係者によるくわ入れ、トンネルの穿孔が開始され、「復興道路」の整備がスタートしました。



2 『復興道路会議』を開催しました！！

平成23年11月25日(金) 東日本大震災津波からの復興に向けたリーディングプロジェクトとなる復興道路等の早期完成を図るため、事業推進についての県民合意の形成と、国・県・市町村等の関係機関が一丸となって課題解決できる体制整備を目的として、「復興道路会議」を開催しました。

この会議は、岩手県、東日本大震災復興対策本部岩手現地対策本部、国土交通省東北地方整備局、復興道路等の関係市町村、地域経済界及び報道関係代表の構成員により組織されています。

会議の冒頭、津川祥吾 東日本大震災復興対策本部岩手現地対策本部長からは、「命の道としての効果の評価をいただいたが、一方でこれまで整備が進んでいなかったという反省点もある。復興道路を早期開通させることを使命として取り組んでいきたい」との挨拶がありました。

国土交通省東北地方整備局からは、事業促進に向けた主な課題や三陸沿岸道路の6つの考え方について、説明が行われ、その後、出席した構成員から意見をいただきました。

主な課題

事業進捗への合意形成

- ・ 全国的な理解や機運の醸成
- 関係機関の連携による課題解決
- ・ 予算の確保と早期執行
- ・ 手続きの迅速化
- ・ 用地の協力



三陸沿岸道路の6つの考え方

強靱性の確保

(浸水区域を回避 95%, 高さのある橋梁で通過 5%)

低コストの実現 コンパクトICの採用

まちづくり支援

(土地利用とのアクセス性に配慮)

拠点と連絡するICの弾力的配置

避難機能の強化 避難階段の設置等

情報通信技術の導入

主な意見

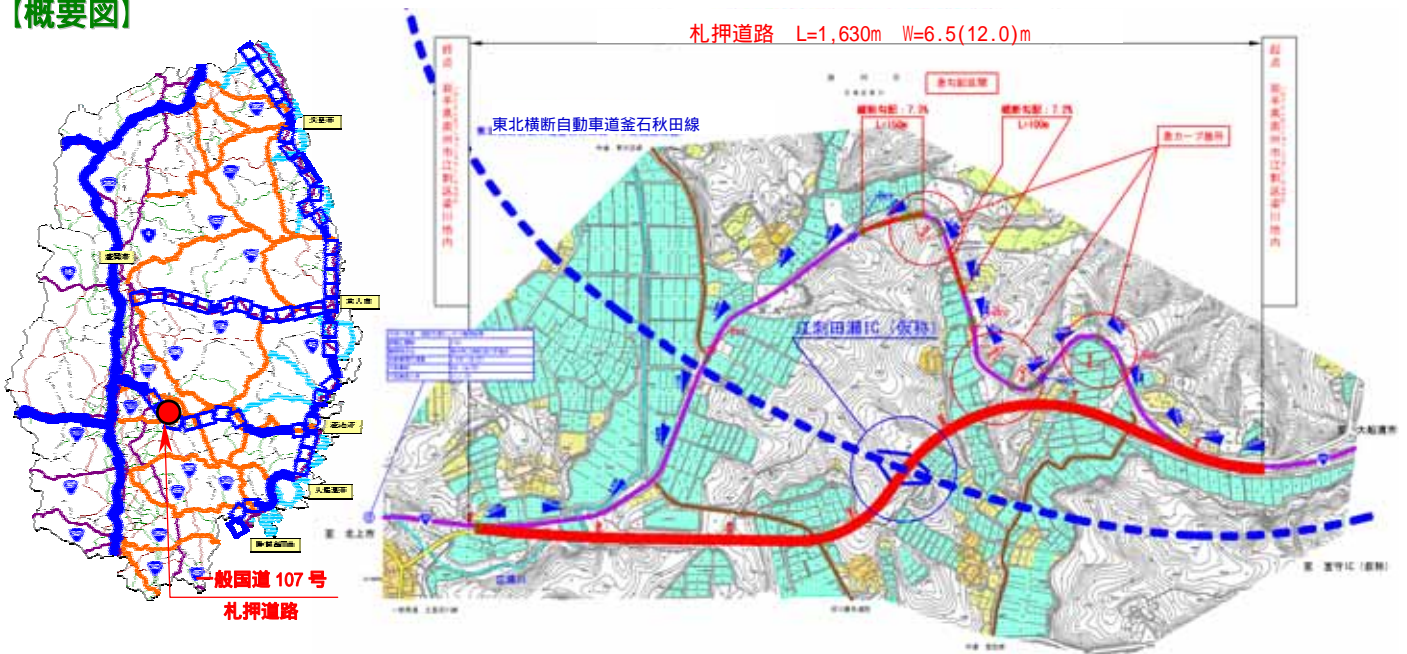
- ・ 復興道路の新規事業化は歓迎
- ・ 道路整備を如何に産業振興に結び付けていくかが重要
- ・ 幹線道路のみならず、周辺道路の整備もネットワークとして配慮が必要
- ・ 埋蔵文化財調査の簡素化を要望
- ・ 速達性、定時性に配慮した構造
- ・ 協力すべきこと(役割分担)の提示

3 『復興支援道路』一般国道107号「札押道路」が暫定供用！！

平成23年10月26日(水) 県が奥州市江刺区梁川地内で整備を進めてきました**一般国道107号札押道路(延長約1.6km)**が**暫定供用**しました。

一般国道107号は、内陸部と沿岸部を結ぶ道路として、**三陸復興道路整備事業**において**復興支援道路**に位置付けている路線です。本工区の供用により、内陸部と沿岸部の交流が促進され、東日本大震災津波からの復興に向けて大きな弾みになるものと期待されています。

【概要図】

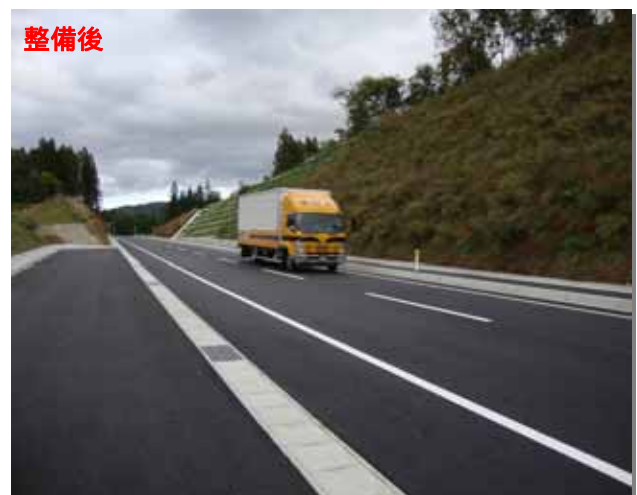


【事業概要】

本工区の現道は、**道路の幅員が狭く、急カーブ、急勾配**となっており、**交通事故が多発**している状況でした。本事業は、これらの課題を解消するとともに、平成24年度に供用を予定している**東北横断自動車道釜石秋田線の江刺田瀬IC(仮称)**への**アクセス性向上**を目的として、平成20年度に事業着手して整備を進めてきたものです。

本工区は、平成24年度の供用開始を目指して事業を進めてきましたが、地権者をはじめとする地域の方々の協力等により、**1年早く供用を開始**することができました。

今後、東北横断自動車道釜石秋田線の供用開始に合わせて、交通安全施設等の整備を行い、当工区の事業を完了する予定です。



4 「第2回 いわたの道を考える懇談会」を開催しました！！

東日本大震災津波の発生により開催を延期していましたが、「第2回 いわたの道を考える懇談会」を平成23年10月27日(木)に開催しました。

「いわたの道を考える懇談会」は、平成21年度に策定した「いわた県民計画」を踏まえた今後の道路整備の目指すべき方向性等について、道路利用者から広く提言をいただくために設置したものでしたが、東日本大震災津波の発生により、震災復興が県政の最重要課題となり、道路行政においても復興を優先した道路整備を推進していく必要があることから、懇談会でもその方向性を踏まえて検討していくこととしました。

【懇談会における検討事項の変更概要】

東日本大震災津波からの復興に向けて、本県が予めから要望していた高規格幹線道路ネットワーク等の整備が「復興道路」として早期に重点整備する方針が国から示されたことから、県では、「復興道路」の多大な整備効果を最大限に波及させるために配慮すべき道路施策を定めた「復興道路を核とした道路施策の取組み方針」を懇談会からの意見や助言等を踏まえて策定し、効果的に各種道路施策を展開していくこととしました。

【第2回懇談会の概要】

懇談会における検討事項の変更等について委員の方々の承諾を受け、その後、事務局から「復興道路」をはじめとした「復興に関する道路計画」と、「復興道路を核とした道路施策の取組み方針」の構成イメージを説明し、委員の方々から意見をいただきました。

< 主な意見 >

懇談会の主旨が明確になった
 避難時(災害時)の駐車スペースが必要
 防災機能を付加する際は、通常の生活とのバランスを考慮
 災害時に核となる道路の信頼性強化
 復興道路を補完する道路も重要
 鉄道と道路の連携や共存を考慮

懇談会の開催状況



第3回懇談会は、「復興道路を核とした道路施策の取組み方針」の素案を提示し、意見、助言等をいただく予定としており、12月下旬～1月上旬に開催することとしています。

「いわたの道を考える懇談会」の詳細については、下記の道路建設課 HP をご覧ください！

<http://www.pref.iwate.jp/list.rbz?nd=806&ik=3&pnp=66&pnp=780&pnp=806>

第1回岩手県河川・海岸構造物の復旧等における 環境・景観検討委員会を開催しました！

～ 地域の特性を生かした良好な景観形成等に向けて ～

河川課

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波から8ヶ月余りが経ちました。

現在、被災した沿岸被災地の河川・海岸構造物の災害査定が行われており、沿岸広域振興局土木部等が一丸となって対応しているところです。

これらの復旧施設の大半は、海沿いの連続的な大規模な構造物であり、復旧にあたっては、**地域の景観に及ぼす影響や自然環境に配慮することが重要**となります。

県では、これらの構造物の復旧等における環境・景観への配慮等の検討を一体的に行い、計画から施工まで一貫して自然環境との共生及び地域の特性を生かした良好な景観形成の保全・創出に資することを目的として「**岩手県河川・海岸構造物の復旧等における環境・景観検討委員会**」(以下「委員会」という。)を設置しました。

11月17日(木)に開催した第1回委員会では、今後の検討の進め方について審議し、その結果、県内沿岸地域を**4つのモデル地区に区分**し、国土交通省が策定した「河川・海岸構造物の復旧における景観配慮の手引き」の内容を基本としつつ、各地域の特性やまちづくり計画等を踏まえ、検討を進めていくことになりました。

今後、当委員会で審議を重ねながら、今年度末までに環境・景観についての配慮事項等を取りまとめていきます。



委員会の審議状況(岩手県公会堂)

検討対象モデル地区 4地区 は次のとおりです。

検討対象モデル	海岸、河川等の名称
砂浜海岸	高田海岸、気仙川(陸前高田市)
港湾海岸	大船渡港、盛川(大船渡市)
複数河川河口部	大槌川、小槌川(大槌町)
観光地周辺	鍬ヶ崎、閉伊川(宮古市)

委員は、「環境」「景観」「構造」の専門家から構成されています。

(敬称略)

委員名	専門	現職	備考
萱場 祐一	環境	独立行政法人土木研究所 自然共生研究センター長	
竹原 明秀		岩手大学人文社会科学部 教授	
平塚 明		岩手県立大学総合政策学部 教授	副委員長
芦澤 竜一	景観	芦澤竜一建築設計事務所 主宰	
平野 勝也		東北大学大学院情報科学研究科 准教授	
南 正昭	構造	岩手大学工学部 教授	委員長
諏訪 義雄		国土技術政策総合研究所 河川研究部海岸研究室長	

いわて花巻空港整備事業完了記念

4年ぶりのハワイ便

空港課

いわて花巻空港整備事業の完了を記念したハワイ（ホノルル空港）直行チャーター便が、10月13、18日に運航されました。いわて花巻空港とハワイとのチャーター便の運航は、平成20年2月に運航されて以来、約4年ぶりとなります。

このチャーター便を運航したのは、米国大手航空会社のデルタ航空で、いわて花巻空港初就航となります。

いわて花巻空港整備事業

滑走路の2500m化、空港ターミナルエリアの移転、平行誘導路の新設など、1998年から始まった総事業費約310億円の事業。平成23年に全ての事業が完了した。



11月13日、いわて花巻空港に到着した大型機（298席）

お客様でにぎわう国際線チェックインロビー



この旅行商品は、民間旅行会社3社が旅行を企画・実施したもので、13日に288名のお客様がハワイへ出発。主要な観光スポットを回ってハワイを堪能し、18日に帰国しました。

いわて花巻空港の平行誘導路や国際線チェックインカウンターの整備により実現した今回の大型機チャーター便。県では、今後とも積極的に国際便を誘致し、県民の皆様の利便性向上に努めていきます。

いわて花巻空港からのお知らせ

いわて花巻⇄名古屋小牧線 年末年始 臨時便運航！

いわて花巻空港では、現在、名古屋小牧線が1日1便運航していますが、2011年12月21日～2012年1月9日（1月1日を除く）に臨時便が運航され、1日2便となります。この機会に、皆様どうぞご利用ください。

名古屋小牧		いわて花巻	いわて花巻		名古屋小牧
便名	出発	到着	便名	出発	到着
353	12:30	13:40	354	14:10	15:35
4355	17:25	18:35	4356	19:00	20:25

赤字部分は年末年始臨時便となります（1月1日を除く）。
[4355便・4356便] 1月5日～9日の運航ダイヤは10分後倒となります。

あなたの夢を翼でつなぐ。



「下水道ふれあい展」が開催されました！！

～ きれいな水を未来まで ～

下水環境課

昭和36年に「全国下水道促進デー」として始まった「下水道の日」の記念行事として、下水道に関する知識の普及、啓発を図ることを目的に、10月29日（土）に「下水道ふれあい展～きれいな水を未来まで～」が開催されました。例年、下水道の日に合わせて、9月上旬に盛岡市東見前の都南浄化センターを会場にした「下水道フェスタ」を開催していましたが、今年度は、会場を一関市中里の一関浄化センターに変更して一関市と（公財）岩手県下水道公社との共催により開催されました。

当日は、102名の来場者でにぎわい、下水道ふれあい展の目玉である「浄化センターの施設見学」や「顕微鏡を使った微生物観察」、下水処理の流れが体験できる「下水道すごろく」、パソコンを使ってゲーム感覚で学習できる「下水道クイズ」など、様々なイベントにより子供から大人まで楽しんでいただきました。

参加した子供達からは、「汚れた水を微生物が食べてきれいな水にしていることに驚いた！」「浄化センターが24時間働いていることにびっくりした！」などの声がありました。

これをきっかけに、たくさんの方々に下水道への関心を持っていただき、下水道を今以上に大切に、正しく使っていただくとともに、下水道の普及がさらに進むことを期待しています。

水処理の状況が分かる「施設見学」



目玉イベント「施設見学」の地下道探検！



こちらも大人気！「顕微鏡で微生物観察」



下水処理が体験できる「下水道すごろく」



「下水道の日」とは??

下水道は、「浸水から街を守る」という重要な役割を持つことから、立春から数えて220日、統計的に台風などが多いこの時期の毎年9月10日を「下水道の日」と定めています。

応急仮設住宅団地の環境改善を実施中！

～ 被災者の快適な生活環境づくりのために ～

建築住宅課

県では、東日本大震災津波で被災された方々のために建設した応急仮設住宅団地について、断熱材の追加、窓の二重化等の寒さ対策や、コミュニティ維持、子どもの遊び場確保等のための遊具（すべり台、ブランコ）、ベンチ設置等の環境改善に取り組んでいます。また、通路のアスファルト舗装化、物干し金物上部の庇の設置、消火器の設置等も併せて進めており、今後とも、応急仮設住宅に入居されている方々が快適で安全・安心に生活できるよう支援していきます。

断熱材の追加

外断熱・窓の二重化



工事中



完成後

風除室の設置



工事前

建具が付きます！



完成後

すべり台、ブランコ



ベンチ、プランター



木賊川の分水路完成報告会を開催しました！

河川課
盛岡広域振興局 土木部

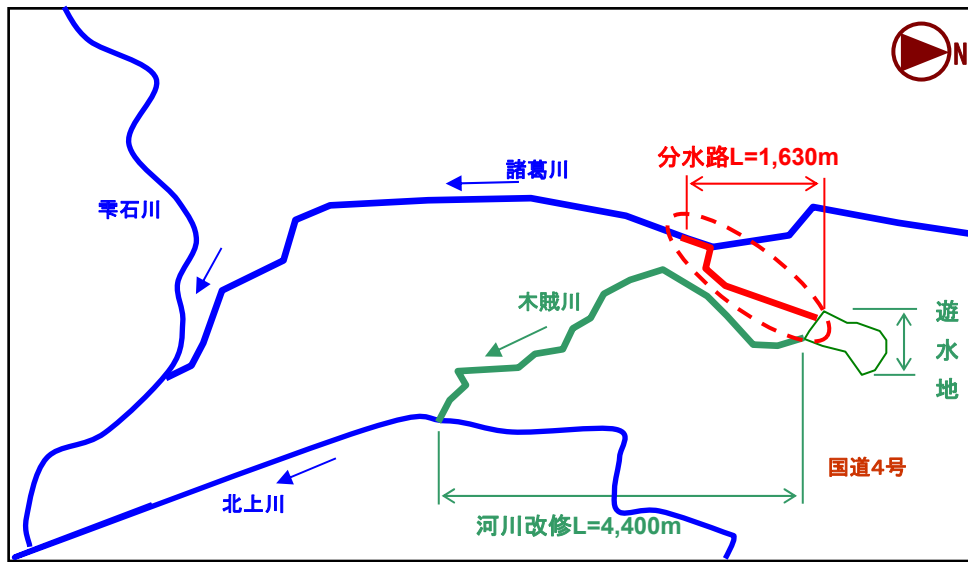
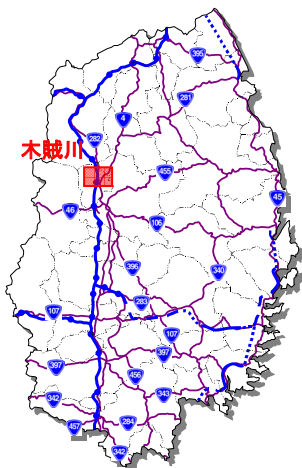
県が洪水対策として工事を進めてきた、一級河川木賊川の分水路が完成し、平成23年11月2日（水）に完成報告会を開催しました。

木賊川は、河川断面が狭小であることから度々浸水被害を受けており、平成14年7月の台風6号では、家屋浸水99戸の甚大な被害が発生し、さらに、平成17年8月にも集中豪雨により、家屋浸水7戸や国道4号が冠水により一時通行止めとなるなどの甚大な被害を受けたため、平成19年度から分水路整備区間を緊急対策特定区間に設定し整備を推進してきたものです。

平成14年7月浸水状況



【位置図等】



分水路完成状況



【報告会】

報告会は、滝沢村役場において関係者ら約50名が出席し行われ、盛岡広域振興局土木部長、滝沢村長、盛岡市長（代理：建設部長）、の挨拶に続き、事務局から事業経過報告を行いました。

その後、地元郷土史を研究している漆戸邦夫さんを講師に迎え、「木賊川の歴史について」と題し、ご講演を頂きました。

【今後の予定】

今後は、遊水地の建設に着手し、本川の改修と合わせて順次推進することにより、段階的に治水安全度の向上を図っていく予定です。

また、関係機関と地域住民で構成している木賊川洪水対策連絡協議会において、毎年、事業の進捗状況などの情報共有を行っていくこととしています。



報告会での野中土木部長の挨拶

名古屋小牧空港発着

Over 福岡・青森・いわて花巻



Hyoito Fukuoka & Aomori & Iwate-hanamaki

空港課

年末年始 臨時便

2011年12月21日(水)～31日(土) 2012年1月2日(月)～9日(月)

青森

18,000円～

名古屋小牧発 4361便 09:10→10:30

青森発 4362便 11:00→12:30

いわて花巻

17,000円～

名古屋小牧発 4355便 17:25→18:35

いわて花巻発 4356便 19:00→20:25

※14355便・4355便11月5日～9日の運航ダイヤは10分後刻となります。

名古屋小牧

福岡

11,500円～

名古屋小牧発 4311便 13:00→14:35

福岡発 4312便 15:05→16:25



いわて花巻空港キャンペーン期間延長

好評につき、
2012.3.24まで
期間延長

空港課

8月1日から毎日運航中!



名古屋小牧⇒いわて花巻

レンタカー割引キャンペーン

いわて花巻空港ご利用のお客様

2011.8.1

好評につき 2012.3.24まで延長

24時間基本料金 **先着1,200台**

3,000円割引!

他の割引サービスとの併用の場合は2,000円割引(一部を除く)

【ご利用条件・注意事項】

- ※本企画は小牧飛行場からいわて花巻空港までご利用いただけます。到着地はレンタカーを借りたままとなります。貸出しは、いわて花巻空港内の営業所に限ります。
- ※貸出しの際に、レンタカーの運転が可能な方のみがご利用いただけます。
- ※4時間以上利用した際の基本料金のほか、保険料別途、オプション料等、車の運送料等は別途必要になります。
- ※ご利用は平日までに限り、またはインターネット予約の必要です。インターネットの場合は、レンタカー会社のホームページからの予約となります。(インターネットで予約の場合は、到着日の前日までに予約の必要です。)
- ※車種は10%以上の割引は適用される場合は、割引額は2,000円となります。一部、車両で違いは適用されません。
- ※料率、割引サービス、予約方法等については、詳しくは、各レンタカー会社にお問い合わせください。

【ご予約・お問合せ先】

オリックスレンタカー 0198-26-0543	トヨタレンタカー 0198-26-0100
日産レンタカー 0198-26-1523	ニッポンレンタカー 0198-26-3255
マツダレンタカー 0198-26-0555	

8月1日から毎日運航中!



名古屋小牧⇄いわて花巻

エアポートライナー定期キャンペーン

いわて花巻空港ご利用のお客様

2011.8.1

好評につき 2012.3.24まで延長

お一人様 **先着300人**

1,000円 又は 2,000円

予約制乗合タクシー

1,000円 紫波・矢幅、花巻南温泉峡、北上、金ヶ崎、後藤野、堅川目、東和、江刺、水沢

2,000円 つなぎ・営宿温泉、遠野、平泉、一関 ←世界文化遺産の平泉まで2,000円!

【ご利用条件・注意事項】

- ※本企画は専用車両を利用される方が対象となります。ご利用の際に、乗客数など乗員が確認できるものを提示してください。
- ※料金はお一人様分です。ご予約は前日2人様からとなります。(お一人様でも前日2人様料金でご予約できます)
- ※北上・雪ヶ崎エリア、北上西部(陸奥野・野口田)エリアは、お一人様から予約できます。
- ※ご予約は乗客1名程度が限度(往復までご利用可)
- ※乗客利用は予約開始日の前日10時迄、運送開始日の前日00時迄です。

【ご予約・お問合せ先】

エアポートライナー会
TEL・FAX 0198-24-2333 (9:00~18:00)

花巻ライナー 検索

思い出の旅は、
いわて花巻空港から。